

## ■ワークショップ開催概要

展覧会開催期間には、江戸東京の伝統を体験できるワークショップも実施します。

申込みの詳細は、2月7日(水)14時に旧岩崎邸庭園オフィシャルサイトにおいてお知らせします。

<https://www.tokyo-park.or.jp/park/format/index035.html>

※申し込みは先着順となります。

※(3)トリプリングのワークショップは申込期限がございますので、申込ページにてご確認ください。

### (1)ゆび組紐ワークショップ

【実施日程】 2024年3月2日(土) 各回定員8名

1回目:9:30~10:30

2回目:10:45~11:45

3回目:13:00~14:00

4回目:14:30~15:30

【参加費】 3,000円(入園料別途)

【参加事業者】 龍工房(江戸東京組紐)

※中学生以上の方が対象です。



組紐ミサンガ(イメージ)

### (2)組子コースター作りワークショップ

【実施日程】 2024年3月3日(日) 各回定員18名

1回目:10:00~11:30

2回目:13:00~14:30

【参加費】 3,000円(入園料別途)

【参加事業者】 建松(江戸組子)

※中学生以上の方が対象です。



組子コースター(イメージ)

### (3)和菓子・日本酒・酒器のトリプリングワークショップ

【実施日程】 2024年3月9日(土) 各回定員25名

1回目:13:00~14:00

2回目:15:00~16:00

【参加費】 3,000円(入園料別途)

【参加事業者】 榮太樓總本舗(江戸菓子)、

木本硝子(江戸硝子・江戸切子)、豊島屋本店(日本酒)

※20歳以上の方が対象です。酒気帯び運転、飲酒運転は法律で禁止されています。

車、バイク、自転車でのご来園は固くお断りします。



和菓子・日本酒・酒器のトリプリング(イメージ)

## ■庭園売店での商品販売

「江戸東京リンク展」の開催にあわせ、都立庭園が造られた、江戸・明治の時代の背景・文化の理解に役立つように、都立庭園売店で江戸東京きらりプロジェクトに関わる商品を販売し、ご紹介を行う予定です。

## ■「江戸東京リシンク展」に出展するモデル事業者



### 伊場仙《江戸団扇・江戸扇子》

天正18年(1590年)創業。400年以上の歴史を誇る団扇と扇子の製作販売を行う老舗。江戸団扇は一本の竹を割いて仕立てるのが特徴であり、江戸扇子は太めの骨で骨数が少なく折り幅が広いことが特徴である。



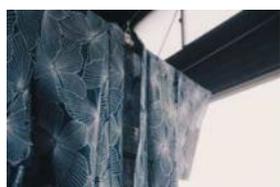
### 宇野刷毛ブラシ製作所《江戸刷毛・東京手植ブラシ》

大正6年(1917年)創業。刷毛づくりで培われた技術をもとに刷毛・ブラシの製作をてがけている。中でも天然毛は毛質を見極めることから始まり、動物や植物など特性を踏まえ様々な用途に対応している。



### 建松《江戸組子》

1982年、江戸川区にて創業。「組子細工」の端緒は、平安時代に生まれた日本建築の建具であり、釘を一切使うことなく、小さな木片を手作業で組み合わせてさまざまな模様を編み出すことができる。



### 丸久商店《注染製品》

明治32年、日本橋堀留町にて創業した注染製品の間屋。注染は主に浴衣や手拭に使用されてきた染色技法であり、創業以来、さまざまな柄や図案を産み出し、日本の芸事、季節のお祭りに彩りを添えている。



### 宮本卯之助商店《和太鼓》

文久元年(1861年)、太鼓店として創業。太鼓・神輿の製造・販売を中心に事業を拡大。創業以来、宮本卯之助商店は祭と伝統芸能の保存と発展を使命とし、祭の持つ人々を繋げる力、世界に誇れる伝統芸能という日本の佳き伝統の継承に貢献している。



### 龍工房《江戸東京組紐》

1963年に創業以来、組紐にあった糸づくり、染色・デザイン・組みまでを一貫して行う都内で唯一の工房。伝統的な組紐だけでなく、先代から受け継がれてきた技術とノウハウから組紐を進化させる商品開発も積極的に行っている。

## ■ 展覧会ディレクター プロフィール



### 舘鼻 則孝 (たてはな のりたか)

1985年、東京都生まれ。東京藝術大学美術学部工芸科染織専攻卒。卒業制作として発表したヒールレスシューズは、花魁の高下駄から着想を得た作品として、レディー・ガガが愛用していることでも知られている。現在は現代美術家として、国内外の展覧会へ参加する他、伝統工芸士との創作活動にも精力的に取り組んでいる。作品は、ニューヨークのメトロポリタン美術館やロンドンのヴィクトリア・アンド・アルバート博物館などに永久収蔵されている。

## ■旧岩崎邸庭園

1896年(明治29年)に岩崎彌太郎の長男で三菱第3代社長の久彌の本邸として造られました。往時は約1万5,000坪の敷地に、20棟もの建物が並んでいました。現在は3分の1の敷地となり、現存するのは 洋館・撞球室・和館の3棟です。木造2階建・地下室付きの洋館は、鹿鳴館の建築家として有名な英国人ジョサイア・コンドルの設計で近代日本住宅を代表する西洋木造建築です。館内の随所に見事なジャコビアン様式の装飾が施されていて、同時期に多く建てられた西洋建築にはない繊細なデザインが、往事のままの雰囲気漂わせています。

【旧岩崎邸庭園 オフィシャルサイト】

<https://www.tokyo-park.or.jp/park/format/index035.html>



旧岩崎邸庭園 洋館

## ■江戸東京きらりプロジェクト

本プロジェクトは、江戸東京の伝統ある技や老舗の産品といった「東京の宝物」に磨きをかけ、その価値と魅力を世界に発信するプロジェクトです。

本プロジェクトは、“Old meets New”をコンセプトに、伝統的な匠の技の中から新たな取組に果敢に挑戦する「モデル事業者」を「衣・食・住」の各分野から選りすぐり、新しい視点から江戸東京の伝統ある技、産品を磨き上げることでその価値を高める取組と、SNSや国内外でのプロモーション等を通じてその魅力を発信する取組を行っています。これらの取組を通じて、東京の伝統ある産業の魅力向上と持続的発展、技の継承を目指していきます。

【江戸東京きらりプロジェクト 各種リンク】

○HP : <https://edotokyokirari.jp/>

○Instagram : [https://www.instagram.com/edo\\_tokyo\\_kirari](https://www.instagram.com/edo_tokyo_kirari)

○Facebook : <https://www.facebook.com/Edo-tokyo-kirari-638579083261624>

HP



Instagram



Facebook



アカウント名  
「edo\_tokyo\_kirari」

アカウント名  
「Edo Tokyo Kirari」



EDO<sup>TM</sup>  
TOKYO  
KIRARI

江戸東京リシンク展

Edo  
Tokyo  
Rethink

*Fusion of Takumi Craftsmanship and Contemporary Art Perceived at the Kyu-Iwasaki-tei Gardens*

2024年3月1日[金] — 3月10日[日]

開園時間 9:00 — 17:00 最終入園 16:30

主催 東京都・江戸東京きらりプロジェクト

共催 公益財団法人 東京都公園協会

会場 重要文化財 旧岩崎邸庭園

展覧会ディレクター 現代美術家 舘鼻則孝

江戸うちわ / 江戸扇子 伊場仙

江戸刷毛 / 東京手植ブラシ 宇野刷毛ブラシ製作所

江戸組子 建松

新江戸染 丸久商店

和太鼓 宮本卯之助商店

東京くみひも 龍工房

金唐草紙 金唐紙研究所(特別協力)

旧岩崎邸庭園でみる匠の技と現代アートの融合

Exhibition period: March 1 Friday — March 10 Sunday, 2024 Opening Hours: 9 a.m. — 5 p.m. (Entry closed at 4:30 p.m.)

Organizer: Tokyo Metropolitan Government / Edo Tokyo Kirari Project Co-organizer: Tokyo Metropolitan Park Association

Venue: Important Cultural Property Kyu-Iwasaki-tei Gardens Exhibition Director: Contemporary Artist Noritaka Tatehana

Exhibitors: Edo Uchiwa / Edo Sensu Ibasen Edo Itake / Tokyo Tsubi Brush Uno Brush Edo Kumiko Tatematsu Shin Edozome Marukyu Shoten

Wadaiko Miyamoto Unosuke Shoten Tokyo Kumihimo Ryukobo Kinkarakawashi Kinkarakami Institute (Special Cooperation)

TOKYO  
METROPOLITAN  
GOVERNMENT

